

農林水産業の「経営状況聴き取り調査結果」について

1 調査の概要

ロシアによるウクライナ侵攻以降、農林水産物の生産に係る資材価格が上昇している中、本県農林水産業への影響を把握するため、県内農林漁業者及び関係団体に対し、聴き取り調査を実施。

【調査期間】令和5年5月中下旬

【調査数】93（農業68・畜産業11・水産業5・林業9）

2 生産者の主な声

（1）生産や販売上の課題

- ・ 燃油やLPガス、肥料、ビニールなどの生産資材価格が高止まり生産コストが上がる中、価格転嫁ができていない。
- ・ 生産コストの上昇に伴い、生産面積や飼育頭数を減らす生産者も出現している。
- ・ 産地ロットが減少することにより、販売力が低下する悪循環が起こりつつある。

（2）経営に関する不安

- ・ 生産資材価格の高止まりや販売価格の低迷が長期化すれば、離農や廃業により産地維持が困難となる。
- ・ 市場出荷は、天候や他産地の状況に左右されるものの、原則的な価格形成は今後も同様であり、生産費に見合った価格となるかが不安である。
- ・ 経営の拡大を目指しているが労働力確保に苦慮している。

（3）今般の物価高騰に対して取り組んだ対策

- ・ 取引先との意見交換を通じ、生産コストに見合った価格となるよう交渉を行った。
- ・ 通常は単年使用であるビニール被覆資材を、補修した上で複数年使用した。
- ・ 照明のLED化と生産施設のこまめな消灯等により節電を行った。
- ・ WCSや飼料用トウモロコシなど、自給飼料の作付拡大を行った。

（4）経営支援に関する要望

- ・ 昨年の支援制度（燃油、LPガス、配合飼料、肥料）の対象とならなかった生産資材についても対策を行い、支援制度を作るに当たっては、昨年同様に、多くの生産者が対象となるような制度として欲しい。
- ・ 販売価格の低迷に関しては、単価を高くすることを目的とした販路拡大や販売支援を行って欲しい。